

みずほと一緒に 国会へ行こう会ニュース

11/08/24発行 No.47

〒100-8962 千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館1111号室
参議院代表番号：03-3581-3111
電話：03-6550-1111
FAX：03-6551-1111
ホームページアドレス
<http://www.mizuhoto.org>
E-mail：mizuho-office@jca.apc.org

社会新報 号外 発行所 社会民主党全国連合機関紙宣伝局 週刊(水曜日発行)〒100-0014 東京都千代田区永田町1-8-1 電話 代表03(3580)1171 振替 00140-1-3203 ●定価180円●1ヵ月700円●送料160円



福島市内の避難所にて。様々な不安や要望をお聞きし、その声を政府に要望しました。1日も早い復興のために力を合わせましょう。(4月6日)

原発推進から脱原発・自然エネルギー促進へ 福島みずほ

3月11日の前と後で世界は変わってしまった。私たちは、あまりに大変な体験と現実を経て、「今までとは違う社会」をつくらなければならないと思う。政治の優先順位も変えなければならない。被災地では、まち全体がなくなっていて、港は破壊され、雇用の場も失われていた。また福島原発の近くに住む人たちは、着のみ着のまま避難し、ふるさとに戻れず、実に多くの人たちが今も放射性物質に脅えている。待ったなし。そして、政治の出番である。個人ではどうしようもできない。政治が大奮闘しなければならないときである。

そして原発推進から脱原発へ。しっかりと自然エネルギー促進へと政治の舵を切るべきだと考えている。原発はいったん事故が起きると人間がコントロールできないものとなる。事故が起きなくても大

量の放射性廃棄物の処分について解決策はない。今も、放射性物質が海や山や大地や水に降り注ぎ、空気や食べ物を通じて、私たちは内部被曝していく。

私はある子どもに言われた。「あなたたち大人がエネルギー政策を転換できなかったから、私たち子どもが未来へ向かってツケを払わなければならない。あなたたち大人のせいだ」と。その通り。現在と未来の命に対する侵害行為を引き起している。

原発がなくてもやっていける。社民党は、「脱原発アクションプログラム」を発表し、「2020年までに原発ゼロ、2050年までに自然エネルギーを100%にする」ことを提案している。

今こそ、「国策」としてやってきた原発推進を変え、自然エネルギーを促進していこう！ そのためにあらゆる人と力を合わせたい。

これまで・今後の重要政策・課題



震災復興や福島原発事故などについて、予算委員会や厚生労働委員会で質問をしました。原発事故については、社民党で福島原発事故対策本部を設け、党をあげて全力で対応しています。

①原発事故について

3月11日以降の事故への対応は問題である。しかし、3月11日以前の原発推進策も批判をされなければならないと考える。「原発は安全だ」と言ってきた人たちが事故の対応に当たっており、事故の過小評価、情報の隠蔽、命に対する軽視などが起こったと思う。

全交流電源喪失という事態が起き、私は本当に心配をして、原子力安全・保安院に3月12日の朝、電話をした。「燃料棒が溶融している可能性がありますね？」と聞くと、「はい、そうです」という答え。「ベントをしたいが、弁が開かない」とも言う。15時からの官邸での会議で「避難は10キロ圏内では足りないのではないか。きちんと避難させるべきだ」と主張したが、「大丈夫」という答え。結局、最近になって早い段階でメルトダウンが起きていたと原子力安全・保安院は発表をした。

予算委員会で質問をしたが、12日などにテルル132が浪江町で検出されていることを保安院などはその時点で知っていた。これは、12日にすでに、燃料棒が溶融し、かつ格納容器の外に放射性廃棄物が出ていることを示している。なぜ、その時点で、国民にわかりやすくそのことを説明しなかったのか。あまりにひどい。そのことを国民が知っていれば、もっと避難をするなり、明らかに行動は変わっていただろう。

77万テラベクレルもの放射性物質が海に山に大気中に放出をされ、今も放出され続けている。多くの人たちが被曝を続けており、大気や食べ物を通じて内部被曝をしていっている。大人も子どもも犬も猫も魚も貝もすべての生き物が被曝をしていくことに、本当にショックを受ける。

核と人を含めたあらゆる生き物は共存できない。

原発の問題は、東電福島原発事故をどう収束させるか。被曝の問題、今後のエネルギー政策についてなどたくさん論点がある。予算委員会や厚生労働委員会で質問をし、行政交渉をし、集会を開き、多くの人と力を合わせ、やれることは全部必死でやっていきます。

②被曝—労働者

2004年、美浜原発の配管が爆発をして、作業員の人たち十数人が死傷し、5人の方が亡くなった事故の現場検証の最中に、美浜原発の中に入ったことがある。亡くなったのは、下請けの人たち。原発で働く人たちの危険性を身をもって感じた。他の原発で被曝した人たちの支援もしてきた。

福島原発事故が起きて、労働者の人たちの被曝線量の限度が100ミリシーベルトから、250ミリシーベルトまであっという間に引き上げられた。このことの問題点、被曝の問題、それぞれの労働者の被曝線量のデータベースを作るなど把握・管理すべきだという問題、缶詰やレトルトパックだけの食事ではなく、せめて弁当でも食べることはできないかなど、労働環境の問題などを厚生労働委員会でとりあげてきた。厚生労働省は、このデータベースを作ると言いながら、なかなかできない。被曝を防ぎ、健康調査がきちんとできるようこれからも取り組んでいく。

③被曝—住民

安全な被曝などない。原発事故によって、人々は浴びなくてもいい放射性物質を浴びせられ続けているのだ。ものすごい怒りと悲しみを感ずる。大人の被曝も問題。しかし、子どもの被曝はもっと問題である。子どもにはたくさんの未来がある。放射性物質についても大人に比べて感受性が強いと言われている。子どもは自分で住む場所を変えることはできない。

たくさんの人たちと「子どもの命を守れ、福島の子どもの命を守れ」と行動をしてきた。とりわけ文部科学省が、20ミリシーベルト以下という基準を出したことについて取り組んできた。文部科学省でやった行政交渉は忘れられない（「みずほ写真館」参照）。その後、大臣と直談判し、1ミリシーベルト以下をめざすということ、国の財政支援を勝ち取ることができた。ただ、20ミリシーベルトは撤回されていない。また、疎開やサマースクールも進めたい。放射線量を計ること、食べ物、給食の問題など被曝の問題に力を注いでいく。

④危険な原発をとめよう

原発の新規建設は許さない。老朽化した原発はとめていく。危険な原発は、順次とめていく。真っ先にとめるべきは、浜岡原発だと考えた。予算委員会で、3月の時点から質問を続けた。4月1日には、浜岡原発に行き、社民党として原発を停止するよう所長をはじめ中部電力に対して申し入れを行った。東海・東南海・南海の3連動の地震が起きる可能性のあるところであり、今後30年間に地震が起きる可能性は87%。いつ地震があってもおかしくないという点で、中部電力と私たちは一致した。

万が一地震になれば、制御棒が入らないことさえ起きるのではないかと。予算委員会で、総理に迫り、デモや集会に行き、総理に直接働きかける。多くの人たちの熱意で、浜岡原発は停止した。2年前の夏も浜岡原発は全部停止しており、電力の供給も問題はない。

はじめの1歩。危険な原発をとめていこう！

⑤再稼働は許すな

原子力安全委員会の安全審査指針も保安院の安全審査基準も福島原発事故を防ぐことに何の役にも立たなかった。そもそも1990年に出た指針は、「全電源喪失は配慮しなくていい」というものであり、班目原子力安全委員長は、浜岡原発訴訟で、当時中部電力側の証人として、「非常用電気ディーゼルが失われた場合にどうなるか」という質問に対して、「割り切らなければ、原発はできない」と答えた人物であり、安全性の担保など、てたらめだったのである。

このことについて、予算委員会で質問をしたら、班目さんは、「割り切り方が正しくなかった」として謝罪をした。

福島原発事故があったのであるから、これまでの指針も審査も無効になり、根本的にやり直さなければならない。事故の収束も検証もされていないのに、なぜ経済産業省は、「安全宣言」などできるのだろうか。原発が建っている県だけではなく、周辺の自治体も当事者の自治体である。再稼働を許さない闘いをしていこう。全国を行脚します。

⑥脱原発アクションプログラム

社民党脱原発アクションプログラムをつくった。電力会社の電力供給量を計算し、今年の夏も来年の夏も原発がなくても大丈夫だというリアルな試算も行った。いくつかの条件はあるが、それをクリアすれば原発に依存しなくても大丈夫なのである。

1. 福島原発事故の早期の収束と検証が必要
2. 2020年までに脱原子力、2050年までに自然エネルギー100%。
東北地方は、自然エネルギーを復興プロセスの重点政策とし、2020年までに自然エネルギー100%を東北で実現。
3. 被災原子炉は運転しない。
4. 原発の新規建設は中止し、危険で老朽化した炉を順次廃炉に。
5. 耐震、津波対策をはじめ安全指針を全面的に見直す。
6. 安全が確保され、住民の理解が得られるまで、原発の運転は行わない。
7. 当面の電力供給は、既存設備のフル稼働などでまかなうことが可能。
8. 当面のつなぎとして、効率のよい天然ガスコンバインドサイクルを活用。
9. 危険なプルトニウムを使う高速増殖炉もんじゅは廃炉に、核燃料サイクル計画は中止。

このアクションプログラムの内容は、下記のアドレスでダウンロードできます。

<http://www5.sdp.or.jp/policy/policy/energy/data/energy2011.pdf>

また、このアクションプログラムの内容がわかりやすいパンフレットになりました。定価200円(送料別途)で販売中。購入ご希望の方は、福島みずほ事務所まで、ご連絡ください。



これまで・今後の重要政策・課題

⑦自然エネルギー

国会議員になった13年前、飯田哲也さんたちと力を合わせ、多くの議員と自然エネルギー促進議員連盟を作った。2002年には、自然エネルギー促進法案を国会に提出したが、否決された。

3月11日の午前中に、自然エネルギー促進法案が閣議決定をされ、国会に提出されている。東北の復興は、自然エネルギーで産業をつくり、雇用をつくっていくことが第1歩である。太陽光・風力・バイオマス・小水力・地熱発電などの地域分散型の自然エネルギーを促進していく仕組みが必要である。何としてもこの法律を通したい。自然エネルギーで、地域を活性化し、原発からの転換をしていきたい。

⑧震災復興

岩手、宮城、福島を訪れ、山形、新潟、埼玉などの避難所を訪れた。現地からの要望が続き、それを政府に要請し、質問や交渉をするということが続けてきた。

震災復興が、「人間の復興」になるように、二重ローンの問題に取り組み、産業や雇用の創出に努力をしている。医療・介護・学校・保育・障がい者作業所などの再生はまだまで、課題が山積みしている。行政交渉や質問などで、再生の促進をしていきたい。震災復興、まちづくりのなかに、もっと女性、障がい者、子ども、高齢者などの意見が反映されるよう提言し、実現していきたい。

⑨障がい者政策

障害者基本法改正法が成立をした。不十分な点は、今後、しっかり取り組みたい。今後は、障害者自立支援法にかわる障がい者福祉法、障がい者差別禁止法が良い内容で成立するようしっかり行政交渉をし、質問も続けていく。

震災で亡くなった人のうち、障がいがある人は障がいがない人の2倍の割合になっているという報告もあり、災害のときに、障がいを持つ人たちはより厳しい状況を強いられている。障がいや病気を抱えている人にとって、より困難な状況は今も続いている。

今回の震災の際、官房長官の記者会見に手話をつけてくれるよう枝野さんに連絡をしたら、すぐ実現をしてくれた。私自身、障害者制度改革推進会議の担当大臣をしていたときに、やりがいもやるべきことも痛感をしていた。法律づくりと制度改革の両方で成果を出していきたい。

⑩子育て支援

子ども手当については、子どもたちに、子どもをかかえる家族に対して、しっかり応援をするよというメッセージを送りつづけるべきだ。どうなるのだろうか心配をさせるようなことは本当によくない。これこそ、政争の具にすべきではない。

「子ども・子育て新システム」がどうなるのかという問題もあるが、とにかく子育て支援に成果を出したいと努力をしている。政府のなかにいるときに、「子ども・子育てビジョン」と「子ども・若者ビジョン」をつくった。横浜市や世田谷区は国有地を貸与してもらい、保育所をつくることに成功をした。沖縄の子どもたちへの応援もさらに進めていくよう、いま交渉中である。保育所だけではなく、学童クラブなどの支援も実現をしていきたい。

⑪雇用を守る

震災によって被災地だけでなく、全国で解雇や派遣切りが拡大し、派遣で働く人たちの雇用が不安定になっている。また、安定雇用を求めているのに派遣という働き方を選択せざるを得ない状況も拡大している。昨年春、国会に提出された派遣法改正法案も審議されないままになっている。この労働者派遣法改正を実現するため、元祖格差是正の社民党としてがんばります。

⑫男女平等・共生政策

現在の法務大臣や外務大臣は、人権侵害があったときに、国連に通報ができる個人通報制度の選択議定書批准に積極的である。選択的夫婦別姓については、裁判が提訴された。懸案の民法改正については、しぶとくがんばります。有価証券報告書に男女の賃金などを記入することをはじめ、雇用の場における差別の撤廃、政治の場における女性の登用や女性を応援することの実現など、これまた力を入れたい。

法務省の中などに設置するのではなく、独立をした人権救済機関の設置や人権教育の充実に力を入れていく。



2011年10月18日(火)

福島みずほ 秋の夜長 パーティ

3.11を経て、私たちは、新しい社会へと踏み出していかなければならないと思います。そのため、たくさんの仲間たちとワイワイがやがや、アイディアを出しあいながら、楽しく元気になるパーティにしたいと思います。

音楽のゲストは吉岡しげ美さんです。話のゲストは田中優さんです。

ぜひぜひ、ご参加ください!! 心からお待ちしています。

◆とき 2011年10月18日(火) 18時30分より

◆場所 都市センターホテル
東京都千代田区平河町2-4-1
TEL:03-3265-8211(代)

◆参加費 1万円

◆内容 吉岡しげ美さんの歌、福島みずほの国会報告
田中優(未来バンク理事長)×福島みずほ 対談「今こそ、脱原発。そしてエネルギーシフト！」



◆呼びかけ人 佐高信、雨宮処凛、飯田哲也、伊藤真、鎌田慧、鎌仲ひとみ、鴨桃代、香山リカ、倉田真由美、古今亭菊千代、斉藤駿、斉藤貴男、榊原富士子、清水澄子、田中優子、早野透、樋口恵子、宮台真司、中山武敏、浜矩子、森達也、山田昌弘、吉武輝子、湯浅誠

市民フォーラム 「8.7 脱原発は可能だ！」 のお知らせ

社民党脱原発アクションプログラムをたたき台に、原発がなくても大丈夫な理由、未来のエネルギーなどについて議論します。

福島みずほが社民党脱原発アクションプログラムについて報告。気候ネットワーク、環境エネルギー政策研究所、FoE JapanなどNGOの皆さんからのコメント・提言もあります。

■日時 2011年8月7日(日)
13時30分～16時

■場所 文京区民センター3-A会議室

■資料代 500円

お問い合わせは福島みずほ事務所・池田まで

「いま、青鞥を生きる」 集会のお知らせ

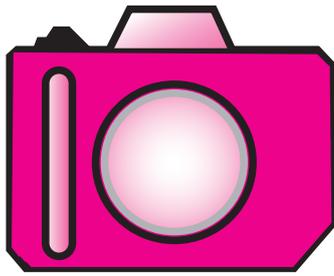
平塚らいてふさんなどが、雑誌「青鞥」を発刊したのが、ちょうど100年前の9月。「元始女性は太陽であった」に、私自身、励まされてきました。100年目を記念して、集会を開きます。ぜひぜひ、ご参加ください。

■日時 2011年9月3日(土) 14時～

■場所 女性就業支援センター
(旧「女性と仕事の未来館」)
東京都港区芝5-35-3
電話:03-5444-4151

■内容 吉岡しげ美さんの歌/瀬戸内寂聴さんのビデオ・メッセージ/高良留美子さん、伊藤比呂美さん、中山千夏さんから発言・メッセージ

◆ショートスピーチ: 田中美津さん、吉武輝子さん、雨宮処凛さん、倉田真由美さん、米田佐代子さん、浅倉むつ子さん、館かおるさん、福島みずほなど多数
元気になる集会にしましょう!



みずほ 写真館



統一自治体選挙の応援に。豊島区の石川大我さんと(1月8日)



社民党15周年を記念する新春の集いにて(1月29日)



院内集会「大逆事件百年後の意味」(1月29日)



枝野幸男官房長官に障がい者基本法についての申し入れ(2月25日)



東日本大震災被災者のための募金活動、吉泉秀男議員と銀座にて(3月17日)



東日本大震災被災者への救援物資を載せたトラックの出発の際に(3月23日)



双葉町町長の井戸川克隆さんと避難先で会談しました(3月31日)



浜岡原発を止めるべきだと中部電力に視察し、申し入れしました。(4月1日)



「被災した子どもたちに本を贈ろう!」と募金活動をしました。吉武輝子さん、市来とも子さんらと(5月5日)



被災した宮城県名取市にて。被害状況の説明を受ける(5月8日)



岩手県宮古市にて。社民党視察団の皆さんと(5月9日)



福島みずほと市民の政治スクール第1回。伊波洋一さんを講師に迎えて（5月19日）



たくさんの皆さんと一緒に「福島の子どもたちを守れ！」と文部科学省交渉をしました（5月23日）



繰り返すな！原発震災の集会に参加しました（5月27日）



「福島みずほと市民の政治スクール in 神奈川」第1回。飯田哲也さんと（6月19日）



菅直人総理大臣に対して、「福島県下における放射線軽減及び健康管理」と「再生可能エネルギー促進法の成立」を求め申し入れました（6月16日）



ドイツ緑の党で前環境大臣のユルゲンさんらにお会いしました（6月16日）



「福島みずほと市民の政治スクール」第2回。田中優さんと（6月23日）



エネルギー政策策定について、服部良一議員と枝野幸男官房長官に申し入れ（6月27日）



瀬戸内寂聴さんにお会いし、「いま、青鞥を生きる！」のためのビデオメッセージをいただきました（6月13日）



アテネで開催されたソシャリスト・インターナショナルで、脱原発・自然エネルギーに向かっていこう！と、訴えました（7月1日）



ギリシャ・パパンドレウ首相と（7月1日）



MIZUHO NOTES

統一自治体選挙

ご支援、応援をありがとうございました。たくさん仲間が挑戦し、当選を果たした人たちと、残念ながら苦杯をなめた人たちに結果は分かれました。福島みずほ事務所の石川大我秘書は、めでたく豊島区議会議員に。服部良一事務所の市来とも子秘書も、めでたく杉並区議会議員になるなど、新しい若い力も生まれました。これからも、みんながんばりましょう！

10月18日(火) 福島みずほ、秋の夜長のパーティ みずほと仲間のワイワイがやがや

ぜひぜひご参加ください。

●日時 10月18日(火)

●場所 都市センターホテル 電話 03-3265-8211(代)

●内容 吉岡しげ美さんの歌、田中優さんと福島みずほの対談など

●会費 1万円

詳しくは5ページをご覧ください。

福島みずほと政治スクール

参議院議員会館講堂または会議室で行います。詳細は、福島みずほのホームページまたは福島みずほ事務所まで、ご連絡ください。資料代は、それぞれ500円です。

●金子勝さん 「3・11後の日本の進むべき道」

7月22日(金) 18時半から20時

●浜矩子さん 「グローバル市民主義のすすめ」

9月6日(火) 18時半から20時

福島みずほと政治スクール in 神奈川

神奈川でも政治スクールをやっています。こちらにもぜひぜひ来て下さい。

それぞれの会場で異なります。ご注意ください

ください。資料代は、それぞれ500円です。

●湯浅誠さん、小川泰子さん、高沢幸男さん

「震災と貧困」

7月24日(日) 午後13時から、横浜水道会館2階(相鉄線天王町駅徒歩7分)

●本田由紀さん

「教育・仕事・家族の関係を考える」

9月10日(土) 午後13時から、川崎市労働会館4階(JR川崎駅東口徒歩5分)

●両宮処凛さん、松本哉さん

「原発について声をあげよう、行動しよう！」

10月2日(日) 午後13時から、川崎市総合自治会館(JR・東横線武蔵小杉駅徒歩7分)

●阿部浩己さん

「タイトル未定(憲法について)」

11月19日(土) 午後13時から、横浜水道会館(相鉄線天王町駅徒歩7分)

●市民フォーラム「原発発は可能だ！」集会

社民党原発アクションプログラムをたまたまに、NGOの皆さんからも提言を受け、議論をします。ぜひぜひ来てください。

●日時 8月7日(日) 13時半から15時半

●場所 文京区民センター13-A会議室

●資料代 500円

●「いま、青鞥を生きる」集会

今年9月は雑誌「青鞥」が発刊して、ちょうど100年目。その100年を記念して、元気な集会を開きます。

●日時 9月3日(土) 14時より

●場所 女性就業支援センター(以前の「女性と仕事の未来館」です/最寄駅JR田町駅)

●内容 詳しくは、5ページをご覧ください。

原発発連続対談動画を見てください!

原発発を広げるために、連続して対談を行い、動画で発信しています。みずほチャンネルと社民党ユーチューブで見ることが出来ます。今まで対談してくださった方は、次の通りです。

田中優さん、飯田哲也さん、西尾猿さん、トーマス・ブリュアーさん、只野靖さん、日隅一雄さん、広河隆一さん、石橋克彦さん、崎山比早子さん、平田仁子さん、小出裕章さん、樋口健二さん、鎌田慧さん、鎌仲ひとみさん、広瀬隆さん、田中三彦さん、宮台真司さん、仲手聖一さん、石丸小四郎さん、香山リカさん、辻信一さん、藤田和芳さん、松本哉さんです。(登場順)
<http://www.5.sdp.or.jp/> または <http://www.youtube.com/FukushimaMizuho> に見ることが出来ます。

『迷走政権との闘い』(アスキー出版)出版しました!

連立政権のとき、離脱のとき、その後について、書きました。事務所に申し込んでください。福島みずほのサイン付でお送りします(定価743円送料別)。ぜひ読んでみてください。

『社会主義インターナショナルの国際理事会に出席しました』

世界の労働党、社民党の集まりである「社会主義インターナショナル」の国際理事会があります。アテネで7月1日から開かれた会議に出席し、東日本大震災、福島原発事故についてスピーチをし、世界的な原発発、自然エネルギーへの転換を訴えました。

みずほと一緒に国会へ行こう会をあらためてご支援願います

会費は1年間 3000円です。

会費・カンパの送り先

口座名称:みずほと一緒に国会へ行こう会

郵便振替口座:00140-6-34620

みずほ銀行麹町支店:普通1016663

※寄付金控除の申請書類が必要な方は言って下さい

ボランティアスタッフ大募集!!
あなたの力を貸してください!!



福島みずほ事務所 〒100-8962

千代田区永田町2-1-1参議院議員会館1111号室

電話:03-6550-1111 FAX:03-6551-1111

ホームページアドレス

<http://www.mizuhoto.org>

E-mail mizuho-office@jca.apc.org

メールマガジン配信中! ぜひご登録を!

Twitterもやっています。ぜひフォローになってください!!